



令和6年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

佐世保市立世知原中学校

- 所在地 佐世保市世知原町栗迎132番地1
- 校長 市田 恒明
- 生徒数 54名
- 学級数 5学級

〔学校教育目標〕 ふるさとを愛し 未来を切り拓く生徒の育成
〈校 訓〉



自主 (自ら学び、ねばり強い生徒)
創造 (自ら考え、判断できる生徒)
友愛 (豊かな感受性を持つ生徒)

1 テーマ

驚きや感動、価値ある体験活動を通して、コミュニケーション力と情報発信力の向上を目指し、地域とともに進化・活性化する学校づくりを推進する。

2 目的

- (1) 様々な体験活動を通して、自ら課題を発見し、主体的に解決していこうとする態度を育てる。
- (2) 道徳教育と様々な体験活動との関連を図り、道徳的实践力を培う。
- (3) 様々な体験活動を生徒自身の手で企画・運営させることで、体験活動の充実を図り、生徒の自主性・自立性を育成する。
- (4) 学校・家庭・地域社会の連携を図り、地域行事への積極的な参加および家庭・地域の教育力を教育活動に活用する場面を多く設定することで、開かれた学校・地域とともにある学校づくりを推進する。
- (5) 共に生きる心や感謝の心を育むとともに、「～とともに前へ～」の意識を浸透させコミュニケーション能力の向上を図ることで、望ましい人間関係を構築させる。

以上を充実させることにより

学校教育目標「ふるさとを愛し 未来を切り拓く生徒の育成」の具現化を図る。

3 実践内容

(1) 地域の人材を活用した学習活動

家庭科の保育の授業において、地域の保育園の協力により保育実習を行いました。実際に園児とふれあい実習を行うことで、教育効果が向上しました。また、地域の漁協からの協力により、家庭科の授業の一環として「お魚料理教室」を実施し、佐世保で採れた魚を使って、魚料理を作成し、生徒の興味関心を高めました。

体育科の「柔道」の授業において、地域の柔道クラブの指導者の方の協力を得て、柔道の授業を行いました。専門的な指導で生徒の技術向上のみならず職員の指導力向上にもつながりました。

道徳において、鎮西学院大学教授「開浩一」氏を招いて、マイノリティに関する授業を行いました。生徒は、授業を通して、少数派の意見の大切さや気づかない内に行っている差別などについて考え道徳的実践力が向上しました。



(2) いのちを見つめる強調月間の取組

校長講話では、「互いに認め合い、励ましあい、助け合い支えあうことがいのちを大切にすること」という内容のもと、命について考えを深めることができました。道徳の公開授業では、各担当が各学級の実態に応じた、「いのち」を主題にした授業を実施しました。また、外部講師として佐賀県の漁師「徳永義昭氏」を招いて、自身の「ラ・カンパネラ」習得から得た経験をもとに授業を行っていただき、子どもたちは何事にも負けず努力を積み重ねることの偉大さを学ぶことができました。メディア講演会では県のメディア安全指導員の方の指導を受け、夏休み前に安全なメディアと接し方について学びました。



(3) 平和教育・人権教育の推進

「6. 29」平和集会では、平和実行委員が中心となり佐世保空襲についての調べたことを発表しました。また、佐世保空襲に関する絵本「赤いくつ」を使って、薄れゆく戦争の記憶をつないでいくことの大切さを改めて学びました。「8. 9」平和集会では、校長による「長崎原爆」についての講話を皮切りに、「6. 29」平和集会での感想、3年生による「戦争を防ぐためのターニングポイント」の発表を行いました。3年生は情報を集め分析することにより、新たに戦争を起こさないようにするためにはどのようにすればよいか思考を働かせました。また、平和実行委員による「世界の紛争」について調べ学習を行いました。人権学習においては、人権集会実行委員会を中心に「人権に関するアンケート」を分析し、発表することにより人権に対する意識を高めました。また、終了後、「人権行動宣言」を行い人権意識を高めました。



3 実践内容

(4) 地域連携の推進(キャリア教育)

本年度5年目となった起業体験学習は2年生を中心に取り組みました。今までの活動をもとに、より地域に貢献することを目的に活動しました。商品開発では新たに「タンブラー」、「ハンカチ」など地元の特産を意識したデザインを自ら考案するなど熱心に取り組みました。また、恒例になっている「カレンダー」の制作では、地元のデザイナーの方にご協力をいただき、作り上げることができました。また、利益の一部を地元の祭りや福祉へと活用していただくための寄付などの活動も行いました。これらの活動により自主性自立性を育成することができ、生徒の「情報収集・分析力」及び「コミュニケーション能力」が向上しました。1, 3年生もまた、世知原くんちでの商品の販売に合わせ、よさこいを披露し地域の活性化に貢献しました。



(5) 健康安全学習の推進

チャレンジメディアコントロール週間を定期テスト時に設定し、自らの意思でメディア利用を制限する取組を行いました。その結果、メディアの使用時間を適切にコントロールすることの大切さを理解することができました。また、校長による「デートDV防止」講話を実施し、男女間の正しい交際方法や、ロールプレイを通した、アサーティブなコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。3年生で実施した「薬物乱用防止教室」では、講師として長崎県警察スクールサポーターの近藤氏及び山本氏を招いてし実際の薬物の形状や販売のうたい文句などを学習し、薬物に誘われた際の断り方についてロールプレイを行って「安易に薬物に手を出さない。」という決意を新にすることができました。



(6) 野外宿泊活動における自然学習の実施

本年度は、世知原少年自然の家が宿泊ができなくなったため、宿泊場所を青少年の天地に変えて実施しました。地元世知原の魅力を再確認するため、最終日は世知原少年自然の家で沢登り体験を実施しました。



(7) ふるさと歴史発見学習の取組

針尾無線塔や浦頭引揚記念館、無窮洞の見学を行いました。事前に学習を行うことで各遺構の意味を理解し訪れたため、大変勉強になりました。また、学んだことを新聞にまとめる等の活動を通じて思考力、判断力、表現力を高めることができました。



3 実践内容



(8) 舞台芸術等総合支援事業(学校巡回講演)

東京演劇アンサンブルによる演劇「走れメロス」観覧しました。本格的な劇団による質の高い舞台は、生徒に衝撃を与え、参加型の演劇は表現することの面白さを感じることができました。



(9) 2回目の「心の状況調査(iチェック)」の実施

心の状況調査(iチェック)を2学期末に再度実施することにより、生徒の心の変容を確認することができました。このことにより、教師側も自らの指導を振り返り、現在の課題や実践事項を共有しました。課題を3学期の指導に生かすことで、進学、進級に向けて個に応じた指導ができました。



(10) 愛校心の醸成への取組

本校の校訓は「自主、創造、友愛」であるが、体育館にその校訓の掲示がありませんでした。入学式や卒業式・修了式などの節目の行事を体育館で行っていますが、その際に前方に掲示された校訓を目にすることで校訓を浸透させることができました。また、世知原を盛り上げてくれた卒業生への最大の敬意と感謝を示すことを目的として、本年度の卒業式では、卒業生をステージ上に着席させる新しい形にしました。保護者・地域からは今までにない感動する式でしたとのご感想をいただき、卒業生にとっても思い出に残る式でした。さらに卒業する生徒に桜の植樹を行わせるとともに、卒業証書授与式や入学式で利用できる写真用のフォトスポット幕を準備し、思い出作りに撮影することにより、愛校心の醸成に繋げました。